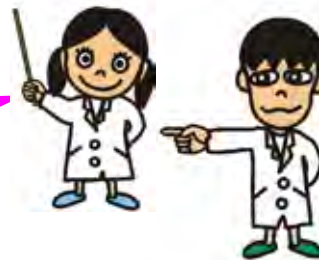


感染症に気をつけよう！



平成 25 年
〔5月号〕

横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況	コメント
風しん		4 月以降も流行が拡大しています。下段の解説を参考にして、該当する方は主治医に相談し、 予防接種 を受けましょう。
マイコプラズマ肺炎		報告数が多い状況が、まだ続いています。長引く咳などがある場合は、医療機関を受診しましょう。 〔11月号〕

流行 やや流行 増加 横ばい

今、気をつけたい感染症 = 風しん

詳しくは[横浜市感染症臨時情報](#)をご覧ください。

予防接種の助成が始まりました！

横浜市内で風しんの流行がさらに広がっています。今年はずでに、昨年の患者数の2倍以上に達しています。

風しんは妊婦(特に妊娠初期)が感染すると、白内障・心疾患・難聴などをもった、[先天性風しん症候群](#)の赤ちゃんが生まれる可能性があります。

予防のためには女性だけでなく、流行の主体である [20~40 代男性](#)の予防接種が重要です。麻しん予防にも役立つ[麻しん・風しん混合\(MR\)ワクチン](#)をお勧めしています。

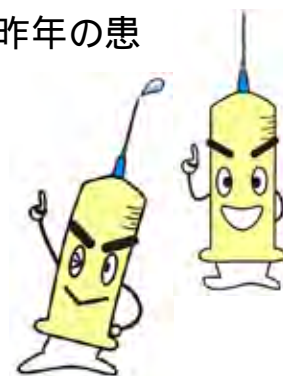
自己負担 3,000 円で接種できます！

横浜市では緊急対策を実施しています。

実施期間：平成 25 年 4 月 22 日から 9 月 30 日まで

対象者：19 歳以上の横浜市民で「妊娠を予定している女性」「妊娠している女性の夫」

詳しくは、保健所ホームページ「[緊急風しん対策について](#)」をご覧ください。



この資料は、[横浜市感染症発生動向調査委員会報告 4 月期の市民向け版](#)です。ホームページの[感染症発生状況](#)や[啓発用パンフレット](#)もご利用ください。



横浜市衛生研究所
感染症・疫学情報課
〔横浜市感染症情報センター〕